

生活文化常任委員会行政視察概要

令和 7 年 8 月 4 日（月）

於 議 会 第 2 会 議 室

午後 2 時 0 0 分 ～ 午後 3 時 3 0 分

1 調査概要

「自治会 SNS 『いちのいち』の活用、自治会加入促進の取組について」

秦野市くらし安心部市民活動支援課

秦野市では現在、235の単位自治会、市内8つの中学校区ごとに各単位自治会が集まった地区自治会連合会、そして各地区自治会連合会により構成される秦野市自治会連合会という組織が日々活動を行っている。

そのような状況の中で、地域コミュニティの活性化、安心・安全なまちづくり、そして持続可能な地域社会の実現を図るため、以前から市と連携協定を締結している小田急電鉄（株）と協働し、令和4年度から自治会 SNS 『いちのいち』の活用を開始した。

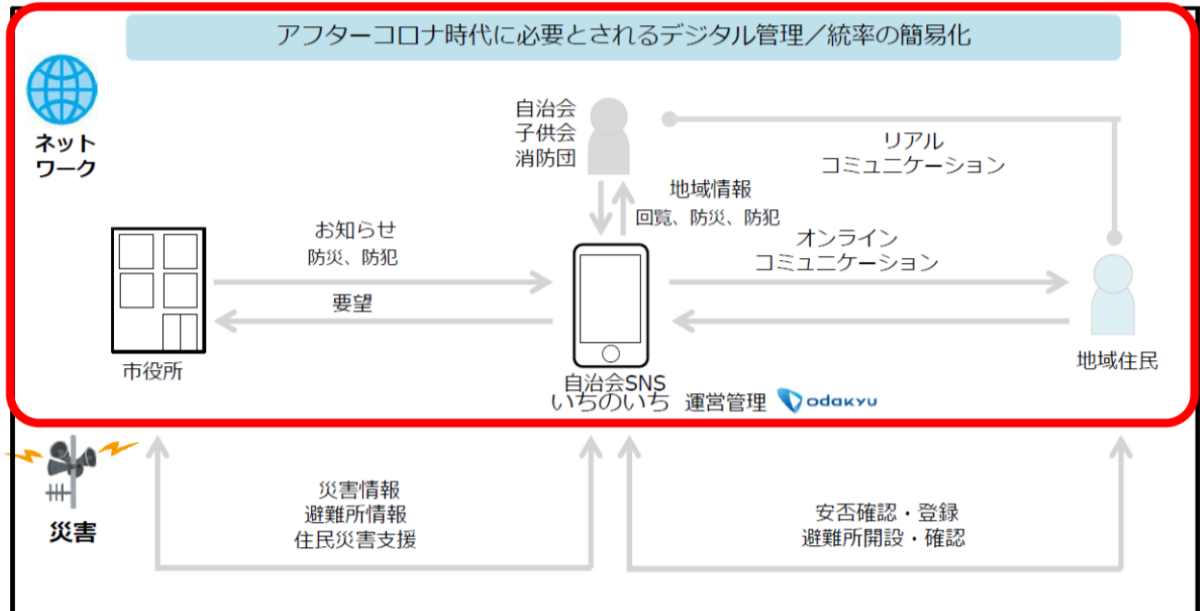
本 SNS の機能として、『電子回覧板』、『コミュニティ形成』、『自治会内の災害管理』、『自治会館の予約』といったものがあり、さらに、令和7年6月に小田急電鉄（株）にて本 SNS のリニューアルを実施し、『高齢者の見守り』、『自治会内でのアンケート調査』といった機能の追加等により、さらなる充実を図っている。若い世代や比較的デジタルに慣れている60代の方からは、「利便性があり、画像等により目に見える形で情報が分かるのが良い。」という声が多いとのことである。一方、本リニューアルによって、利用方法の変更や無償プランが廃止になった等のことから、今後、利用方法等を説明する出前相談会の開催、新たな費用負担への対応について、各自治会や庁内で調整していく予定とのことである。

また、自治会加入促進の取組については、自治会による一軒一声掛け運動や市による転入者への自治会加入促進チラシの配布を実施している。ある自治会では、若い世代の自治



会加入のために、イベントのみを手伝うサポーター制度を導入しているとのことである。今後は、上記の取組に加え、自治会活動の負担軽減のため、市から自治会への依頼内容の見直しや事務手続きの簡素化に取り組んでいくということであった。

自治会SNS「いちのいち」の概要



出典) 視察当日に秦野市が配布した資料から抜粋

自治会SNS「いちのいち」の機能

- **電子回覧板**
回覧物をリアルタイムで閲覧すること可能となる。(画像やデータ添付が可能)
- **コミュニティ**
趣味やイベントなど、自治会内で自由にコミュニティを作成し、交流可能となる。
- **災害管理**
自治会内の被災情報や避難情報等を発信し、災害時の共有が可能となる
- **会館予約**
アプリ上での自治会館の予約が可能となる。
- **見守り機能 (今後リリース予定)**
アプリの利用状況等から高齢者の生活を見守り、家族等への通知が可能となる。して連絡する。
- **アンケート機能 (今後リリース予定)**
自治会内のアンケート調査がアプリ上で可能となる。



↑ 回覧物の配信内容

出典) 視察当日に秦野市が配布した資料から抜粋

2 主な質疑応答

(1) 自治会SNS『いちのいち』&自治会加入促進の取組について

問1 そもそも小田急電鉄（株）が『いちのいち』を開発したきっかけとは。

答1 小田急電鉄（株）の開発者が秦野市出身者ということもあるが、当時、コロナ禍で人との繋がりが希薄化する中で、「人との繋がりを作るようなアプリがあれば良いな。」「高齢者が家にいても、地域の情報が分かるような物があれば便利だな。」という思いが開発するきっかけだったと聞いている。

問2 『いちのいち』導入後、自治会加入率はどう変動したか。

答2 『いちのいち』の登録率は増加しているが、自治会加入率は減少している。特に、令和4年度以降の自治会加入率の減少が著しく、これは、令和2～3年度でコロナにより活動中止を余儀なくされ、コロナがある程度落ち着いた令和4年度からの活動再開が困難だったことが原因として考えられる。

また、コロナとは関係ないが、令和6年度末に、ある特定の地域で自治会の解散に関する相談が集中的に続いたことがあった。市が支援を行い、結果的に解散には至らなかったものの、今回の件で「A自治会が解散するなら、うちも解散したい。」というような口コミによる情報伝達の速さを実感した。

年度 項目名	令和4年度 【①】	令和7年度 【②】	増減 【②－①】
『いちのいち』の 登録率（％）	3.1	9.4	+ 6.3
自治会加入率（％）	60.08	52.86	▲ 7.22

問3 『いちのいち』が無償から有償に変わる時に、例えば、他業者も含めて公募型プロポーザルによる事業者選定等を実施するといった検討はあったのか。

答3 『いちのいち』を最初に導入したのは、秦野市の自治会であった経緯等があり、秦野市としては、小田急電鉄（株）からの撤退は考えられなかった。また、費用面を調査しても、他業者のアプリと比べて『いちのいち』が一番安価だということもあった。

問4 秦野市の公式LINEと『いちのいち』とはどのような関係性か。

答4 市の公式LINEは、市の行政サービス等の情報を配信するものであるため、各自治会や各地区自治会連合会等の情報は配信ができない。『いちのいち』であれば、各単位自治会や各地区自治会連合会等の情報が共有できる。

(2) その他

問5 秦野市内の自治会における「自治会費」は均一で決まっているのか。それとも各自治会で異なるのか。

答5 各自治会で異なる。令和2年度に秦野市が実施した自治会アンケートによると、大体年間2,500円～3,500円くらいの間が相場となっている。高いところだと、5,000円の自治会もある。また、水害が多い地区（自治会）の中には、消防団への活動援助費の支出のために自治会費を一部充てている自治会もある。

問6 秦野市全体における自治会加入者の平均年齢はどうなっているのか。

答6 企業の定年延長等の影響もあるのか、実際に地域で活躍されている年代が平均70歳前後くらいだと聞いている。中には、若い世代が多く加入している自治会もあるが、特に若い世代は、役員という言葉に敏感であることから、「無理のない範囲で時間がある時に手伝ってほしい。」といった呼びかけをしている自治会が上手く活動できていると感じている。

問7 自治会を対象に、市主催のお茶会等のイベントは実施しているのか。

答7 現状は、市主催のイベントは実施していない。

秦野市は、地区ごとに特色があるまちづくりをしていこうという動きがあり、市としては、各地区の取組を情報発信するのがメインになっている。

以上